石がま漁 復活

湖山池西側 3年ぶり 寒ブナ30キロ

湖山池西側の鳥取市三津地区に江戸時代から伝わる伝統漁法・石がま漁が1日、3年ぶりに復活した。地区住民約30人が参加。岸辺にある石組みの人工漁礁に魚を追い込み、時折激しい雨の中で30キロほどの寒ブナをすくい上げた。

三津地区石がま保存会によると、元禄年間（1688～1704年）に始まったとされる。県指定の無形民俗文化財。湖山池汽水化事業直前の2012年冬の漁を最後に中断。昨年8月に再開を決め、汽水化で石に繁殖したフジツボを取り除くなど準備してきた。

この日は午前9時から船で沖からかまに接近。竹竿（たけざお）で隙間をつつきながら徐々に陸側の「胴函（どうかん）」と呼ぶ場所に追い込んだ。3基中2基は数匹しかかからなかった。約3時間かけて1基から50～60匹のマブナやゲンゴロウブナをとった。

汽水化の前は1基で約300キロの水揚げがあったといい、保存会の田中一幸会長は「残念な結果。続けることが大事だが、周囲の意見を聴き、今後を考えたい」と話した。

（古源盛一）

おくやみ申し上げます

鳥取市	28日	岩永 うめ
	1日	大久保 實
米子市	28日	田中 千枝
		矢倉 幸子
	1日	福井 富子
倉吉市	1日	伊藤八重野
境港市	1日	渡辺 和光
八頭町	1日	今嶋 芳一
湯梨浜町	27日	長谷川萬
	28日	松本須磨子
北栄町	1日	橋本
南部町	1日	山口 恒
安来市	1日	川井
		遠藤 人

倉吉葬祭会館
倉吉市幸町462
TEL(0858)22-0044
創想の杜
そうそうのもり